

住環境学科・住環境学専攻

2010年度ガイダンス資料

2010.4.8

目次

1. 住環境学科・住環境学専攻の学習・教育目標	1
2. 教職員紹介	2
3. 履修に関する諸注意	3
1) 教育課程	3
2) 住環境学科・住環境学専攻専門科目	3
3) 授業時間と学習教育目標	3
4) 時間割, 履修時期	4
5) 設計課題	4
6) その他	4
(6-1) 科目名称および必修等の種別変更	4
(6-2) 卒業研究	7
4. 学習等支援システム	7
1) アドバイザー	7
2) オフィスアワー	7
3) 履修内容の自己管理	8
4) セルフ・ポートフォリオ	8
5) クラス担任	9
5. 研修	9
1) 新入生合宿研修	9
2) 在来生合宿研修(3回生対象)	9
3) 住環境学学外実習(インターンシップ)	10
4) オープンデスク	10
6. 学生教育研究災害保険・付帯賠償責任保険について	10
7. 建築関連の資格	11
1) 受験資格	11
2) 登録資格	11
3) 在学中に受験できる資格	11
8. 成績優秀者表彰制度	12
1) 第学生会賞	12
2) 各種学協会による表彰	12
3) その他	12
9. 進学・就職活動	12
1) 進学・就職調査	12
2) 学科・専攻を窓口とする就職斡旋	13
3) 学生生活課による就職活動支援行事	13
4) 就職活動における注意	13
5) 大学院進学	13
6) 公務員試験の受験	13
7) キャリア教育科目	14
10. 施設利用	14
1) 住環境学科資料室	14
2) ADDRESS室	14
3) 製図室	14
4) 実験室	14
11. 学生による各種企画とその支援	15
1) クリスマスコンパ	15
2) 卒業論文・卒業設計展	15
3) 卒業研究発表会終了後の懇親会	15
12. その他	15

【資料編】

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| 資料 1 | 日本技術者教育認定制度について |
| 資料 2-1 | 専門科目の配当表（住環境学科 平成 21 年度以降入学者） |
| 資料 2-2 | 専門科目の配当表（住環境学科 平成 20 年度以前入学者） |
| 資料 3 | 専門科目の配当表（人間環境学科 住環境専攻） |
| 資料 4 | 授業科目別授業時間（住環境学科） |
| 資料 5 | 授業科目別学習保証時間（住環境学専攻） |
| 資料 6 | 平成 22（2010）年度 住環境学科・住環境学専攻時間割 |
| 資料 7 | 平成 22（2010）年度 教養教育科目時間割 |
| 資料 8 | 平成 22（2010）年度 設計系演習日程 |
| 資料 9 | 卒業設計プログラムレポート・・・デザインブックの作成について |
| 資料 10 | アドバイザー一覧 |
| 資料 11 | 住環境学科・住環境学専攻教員のオフィスアワー等一覧 |
| 資料 12 | 住環境学科・住環境学専攻 アドバイジングカルテ |
| 資料 13 | 住環境学科の卒業要件単位について |
| 資料 14 | 一級／二級・木造建築士試験の受験資格要件について |
| 資料 14-1 | 指定科目に該当する開講科目一覧（一級：2 年 二級・木造：0 年） |
| 資料 1 | 日本技術者認定制度 |
| 資料 2-1 | 専門科目の配当表（住環境学科 平成 21 年度入学者） |
| 資料 2-2 | 専門科目の配当表（住環境学科 平成 20 年度以前入学者） |
| 資料 3 | 専門科目の配当表（人間環境学科 住環境専攻） |
| 資料 4 | 授業科目別学習保証時間（住環境学科） |
| 資料 5 | 授業科目別学習保証時間（住環境学専攻） |
| 資料 6 | 平成 21（2009）年度 住環境学科・住環境学専攻時間割 |
| 資料 7 | 平成 21（2009）年度 教養科目時間割 |
| 資料 8 | 平成 21（2009）年度 設計系演習日程 |
| 資料 9 | 卒業設計プログラムレポート・・・デザインブックの作成について |
| 資料 10 | アドバイザー一覧 |
| 資料 11 | 住環境学科・住環境学専攻教員のオフィスアワー等一覧 |
| 資料 12 | 住環境学科・住環境学専攻 アドバイジングカルテ |
| 資料 13 | 住環境学科の卒業要件について |
| 資料 14 | 建築士の受験資格要件 |

1. 住環境学科・住環境学専攻の学習・教育目標

	幅広い知識、教養と工学基礎能力
A	A-1 人間、社会、文化、環境に関する幅広い知識と教養を身につけている
	A-2 建築技術に必要な、数学、物理などの自然科学に関する知識および応用能力を身につけている
	A-3 情報処理のための基礎的な知識、技術を身につけている
	生活および生活環境に関する知識と理解力
B	B-1 人間と人間をとりまく様々な生活および生活環境についての基礎的知識を身につけている
	B-2 地球環境に調和し、快適で健康的な生活環境を考察する能力を身につけている
	住居、建築に関する基礎的知識と計画能力
C	C-1 住居や建築の成り立ち、およびそこで営まれる人間の文化的・社会的諸活動について理解している
	C-2 住居や建築が生活、社会、環境に及ぼす影響について理解している
	C-3 住居や建築の構造、環境、維持保全に関する基礎的知識を身につけている
	C-4 基礎的知識をもとに住居や建築の計画についての情報の収集、整理ができる
	住居、建築、地域環境を創造するための専門的知識と応用能力
D	D-1 地域環境を理解し、住居や建築をその中に位置付けて計画できる
	D-2 物理的環境の構築に必要な構法や生産・施工技術について理解している
	D-3 生活および生活環境に関わる問題を多面的に解明し、望ましい方策を提案できる
	デザイン能力
E	E-1 各種情報を総合的に理解、分析、評価し、具体的な住居、建築、環境を計画・設計できる
	E-2 立体的な造形能力、空間構成能力を身につけている
	実務遂行能力
F	F-1 学習や課題の発見、解決のために主体的、継続的に取り組むことができる
	F-2 一定条件のもとで仕事を遂行し、他分野、他領域の専門家や地域の人々と協力して課題解決にあたる能力を身につけている
	F-3 情報収集、表現のためのコミュニケーション、プレゼンテーション能力を身につけている

2. 教職員紹介

■専任教員（各五十音順）

	氏名	担当	主な担当科目	研究室
教授	井上 容子		建築設備学Ⅰ, 建築設備学Ⅱ, 住環境工学実習, 建築設備学実習, 設計演習Ⅴ, 空間計画のための物理環境科学演習Ⅱ, 住環境工学実習	E403
	今井 範子		住生活学Ⅰ(基礎編), 住生活学Ⅱ(応用編), 住環境造形実習, 設計演習Ⅲ	E508
	瀬渡 章子		建築計画学, 住環境計画学, CAD 演習, デジタルデザイン演習, 設計演習Ⅲ	E503
	中山 徹	1 回生	都市計画学, 地域居住学, 設計演習Ⅰ, 設計演習Ⅳ, 住環境学フィールド演習Ⅲ	E516
	増井 正哉	学科長	建築・住居史, 建築・住宅論, 測量学/測量学実習, 住環境造形実習, 設計演習Ⅱ, 設計演習Ⅴ, 住環境学フィールド演習Ⅱ	E401
	宮城 俊作	進路	緑地環境計画論, ランドスケープデザイン論, 住環境造形実習, 設計演習Ⅰ, 設計演習Ⅱ, 設計演習Ⅳ, 設計演習Ⅴ, 空間計画のための自然環境科学, 住環境学学外演習(合宿演習)	E407
准教授	長田 直之	2 回生	空間デザイン学, 住居デザイン学, 住環境造形実習, 設計演習Ⅰ, 設計演習Ⅱ, 設計演習Ⅲ, 設計演習Ⅳ, 住環境学学外演習(合宿演習), 住環境学フィールド演習Ⅳ	E504
	長野 和雄		建築環境学, 環境衛生学/生活環境と住居設備, 住環境工学実習, 建築環境学実習, 設計演習Ⅴ, 空間計画のための物理環境科学演習Ⅱ	E406
	向井 洋一	教務	建築一般構造学, 建築構造力学, 建築構造・管理学実習/構造材料力学実習, 空間計画のための物理環境科学演習Ⅰ, 建築構造学実習, 住環境造形実習, 設計演習Ⅰ	E510
	山本 直彦	3 回生	生活空間解析学Ⅰ・Ⅱ, 住環境造形実習, 設計演習Ⅰ, 設計演習Ⅱ, 設計演習Ⅴ, デジタルデザイン演習, 住環境学学外実習(インターンシップ), 住環境学フィールド演習Ⅱ	E507
講師	藤平 眞紀子		建築材料学, 住居管理学, 建築構造・管理学実習/住居管理学実習Ⅰ, 住居管理学実習/住居管理学実習Ⅱ, CAD 演習, 空間計画のための物理環境科学演習Ⅰ, 設計演習Ⅰ, 住環境学フィールド演習Ⅱ	E410
助教	牧野 唯		住環境造形実習, 設計演習Ⅰ, 設計演習Ⅳ, 住環境学学外演習(合宿演習)	E509

■非常勤講師（五十音順）

氏名	担当科目	所属等
石井 智子	インテリアデザイン	石井智子美建設事務所
小高 直樹	建築図学	神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授
相良 和伸	建築設備学	大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻教授
橘 弘志	福祉住環境学	実践女子大学生活科学部准教授
辻村 久信	インテリアデザイン	辻村久信デザイン事務所
玉置 順	設計演習Ⅲ	一級建築士事務所玉置アトリエ
細田 みぎわ	設計演習Ⅱ	Migiwa Hosoda Archi-Studio
宮川 治雄	建築施工学	株式会社竹中工務店大阪本店品質監理部部長
前田 亮	住環境法規/住宅法規	奈良県土木部まちづくり推進局営繕課長
森野 晋次	デッサン	美術作家・大阪成蹊大学非常勤講師
清水 裕二	建築生産デザイン学演習	愛知淑徳大学准教授
榎原 健一他	建築構造学/建築構造計画学・木造建築構造学	株式会社 S E R B

■教務・事務補佐員

教務補佐	安岡 由香		JABEE 受審事務担当	E415
事務補佐	森 ゆかり			E415
事務補佐	山本 千恵			E415

3. 履修に関する諸注意

1) 教育課程

住環境学科および人間環境学科住環境学専攻の教育課程は、教養教育科目、専門教育科目、キャリア教育科目の3つの柱からなります（全学教育ガイド参照）。

住環境学科の学生（平成18年度以降入学）について、「教養教育科目」と「キャリア教育科目」は全学共通で開講されるため、まとめて「全学共通科目」と呼ばれます。全学教育ガイドに履修案内とシラバスが掲載されていますので、参照してください。また、生活環境学部規程第5条に卒業の要件となる単位数が定められています。第5条の表に定める各単位を含めて修得してください。

人間環境学科住環境学専攻の学生（平成17年度以前入学）について、平成18年度に全学共通科目が整理されていますが、従来の科目区分「全学共通科目」（教養科目・外国語科目・保健体育科目）「キャリア教育科目」「教職科目」が適用され、引き続き各自の計画に沿って履修することができます。

【住環境学科】

教養教育科目 基礎科目群（主題科目，外国語科目，保健体育科目，情報処理科目）
教養科目群（人間と文化，生活と社会，人間と自然）

キャリア教育科目 キャリアプラン科目群
教職科目群
資格関連科目群

専門教育科目

【人間環境学科住環境学専攻】

全学共通科目 教養科目（文化系科目，自然科学系科目，総合科目）
外国語科目
保健体育科目

キャリア教育科目

教職科目

専門科目

2) 住環境学科・住環境学専攻専門科目

住環境学科および人間環境学科住環境学専攻の専門科目について、それぞれの学年進行に対応する専門科目の配当表を資料2-1，資料2-2，資料3に示します。専門科目は、計画系，設計系，環境系，構造・管理系，実験・実習，総合・その他の分類ごとに、学年を追って順に受講するようにプログラムされています。学年・学期が後になる授業では、同じ分野のそれより前に開講される授業に対する積上げとしての授業内容も含んでいますので、高学年配当の授業の基礎となる低学年配当の授業内容からしっかりと学習し、確実に修得していくようにしてください。また、履修に当たっては、専門教育ガイド，生活環境学部規程を必ず参照してください。

3) 授業時間と学習教育目標（資料4・5）

住環境学科、および人間環境学科住環境学専攻技術コースは、日本技術者教育認定制度の認定を受けており、授業時間（旧名称：学習保障時間）を確保していくことが必要になります。（資料1）

各科目と単位，授業時間との関係を住環境学科（資料4），住環境学専攻（資料5）に示します。専門科目は、次の分野からなります。

平成19年度以降入学者（新基準を適用）	平成18年度以前入学者
①建築設計	①建築設計・計画（計画系，設計系），
②建築計画	②建築環境・設備（環境系，実験・実習），
③建築環境・設備（環境系，実験・実習），	③建築構造・構法（構造・管理系，実験・実習），
④建築構造・構法（構造・管理系，実験・実習），	④建築生産・施工（構造・管理系，実験・実習），
⑤建築生産・施工（構造・管理系，実験・実習），	⑤その他（総合・その他）
⑥その他（総合・その他）	

学習カリキュラムは、主に必修科目の習得により、これらの学習内容の区分ごとの最小限の授業時間を達成できるように構成されています。選択必修/選択科目の履修計画においては、それぞれの科目と学習内容の区分の対応を確認し、住環境学科・住環境学専攻の学習・教育目標の達成において、各区分の学習内容をバランスよく修学できるよう各自で学習計画を立ててください。

4) 時間割, 履修時期 (資料6・7)

平成 22 (2010) 年度の住環境学科・住環境学専攻時間割を資料 6 に示します。また、平成 22 (2010) 年度 教養教育科目時間割を資料 7 に示します。これらの時間割は住環境学科・住環境学専攻で便宜的に作成したものです。実際に受講登録を行う際には、専門教育ガイド, 生活環境学部シラバス, 全学教育ガイド、ならびに掲示板により各科目の開講情報を確認してください。

5) 設計課題 (資料8)

4 回生までの課題を見て全体の雰囲気をつかんでください。単に要求事項をこなすのではなく、自分の可能性や課題の可能性を探求することが設計課題と楽しくつきあうコツです。ただし、エスキス批評・最終提出などの日程は厳守です。

6) その他

(6-1) 科目名称および必修等の種別変更 (開講年度, 履修上の注意点)

対象：住環境学科

科目名	変更内容	単位数	履修区分	対象年次	備考
測量学実習	科目名変更	2	選必	3年	旧科目名：測量学 ○ H21 年度以降入学生対象 (本年度は開講しない) － 本年度は「測量学」(3 回生以上：H20 年度以前入学生対象) を開講。
生活環境と住居設備	科目名変更・履修区分変更	2	準必修* 選必	1年	旧科目名：環境衛生学 ○ H21 年度以降入学生対象 (本年度開講) － H20 年度以前入学生は、「環境衛生学」(5508000) で受講登録する。 * H22 年度入学生は、本科目か「建築設備学」のいずれか一方を必修とする。なお、両科目とも習得した場合は、一方を選択必修の履修単位数に加算できる。
建築装備学Ⅱ	対象学年・開講学期変更	2	選必	2年* 3年**	* H21 年度以降入学生 ** H20 年度以前入学生 － 本年度は 2・3 回生以上対象：H21 年度以前入学生対象、後期に開講する。
建築構造・管理学実習	単位数・科目変更	2	必修	2年以上	○ H20 年度以前入学生対象科目 (本年度開講) － H21 年度以降入学生は、受講できない。
構造材料力学実習	新設科目	1	必修	2年	○ H21 年度以降入学生対象 (本年度開講) － H20 年度以前入学生は、受講できない。
住居管理学実習Ⅰ	新設科目	1	必修	2年	○ H21 年度以降入学生対象 (本年度開講) － H20 年度以前入学生は、受講できない。
住居管理学実習Ⅱ	科目名変更	1	選必	3年	旧科目名：住居管理学実習 ○ H21 年度以降入学生対象 (本年度は開講しない) － 本年度は「住居管理学実習」(3 回生以上：H20 年度以前入学生対象) を開講。
建築構造学	単位数・科目変更	2	選必	2年以上	○ H20 年度以前入学生対象科目 (隔年開講, 本年度開講) － H21 年度以降入学生は、受講できない。
建築構造計画学	新設科目・履修区分変更	1	準必修* 選必	2年以上	本年度開講 (旧)「建築構造学」を修得したものは履修できない * H22 年度入学生は、本科目か「木造建築構造学」のいずれか一方を必修とする。なお、両科目とも習得した場合は、一方を選択必修の履修単位数に加算できる。
木造建築構造学	新設科目・履修区分	1	準必修* 選必	2年以上	本年度開講 (旧)「建築構造学」を修得したものは履修できない

	変更				* H22 年度入学生は、本科目か「建築構造計画学」のいずれか一方を必修とする。なお、両科目とも習得した場合は、一方を選択必修の履修単位数に加算できる。
住宅法規	単位数・科目変更	2	選必	2年以上	○ H20 年度以前入学生対象科目（本年度は開講しない） － H21 年度以降入学生は、受講できない。
住環境法規	新設科目・履修区分変更	1	必修* 選必	2年以上	本年度開講。 (旧)「住宅法規」を修得したものは履修できない * H22 年度入学生
建築生産デザイン学演習	新設科目・履修区分変更	2	準必修* 選必	2年以上	本年度開講。 隔年開講、建築施工学と交互に開講 * H22 年度以降入学生は、本科目か「建築施工学」のいずれか一方を必修とする。なお、両科目とも習得した場合は、一方を選択必修の履修単位数に加算できる。
建築施工学	隔年開講（非開講）・履修区分変更	2	準必修* 選必	2年以上	本年度は開講しない。平成 23 年度開講予定 隔年開講、建築生産デザイン学演習と交互に開講 * H22 年度以降入学生は、本科目か「建築生産デザイン学演習」のいずれか一方を必修とする。なお、両科目とも習得した場合は、一方を選択必修の履修単位数に加算できる。
建築設備学	隔年開講（開講）・履修区分変更	2	準必修* 選必	2年以上	本年度開講。隔年開講 * H22 年度以降入学生は、本科目か「生活環境と住居設備」のいずれか一方を必修とする。なお、両科目とも習得した場合は、一方を選択必修の履修単位数に加算できる。
インテリアデザイン	隔年開講（非開講）	2	選必	2年以上	本年度は開講しない。平成 23 年度開講予定 隔年開講、福祉住環境学と交互に開講
福祉住環境学	隔年開講（開講）	2	選必	2年以上	本年度開講。8 月 3 日（火）～5 日（木） 隔年開講、インテリアデザインと交互に開講
住環境学フィールド演習 I	非開講	1	選択	1年以上	本年度は開講しない。 － H22 年度入学生は、受講できない。
住環境学フィールド演習 V	非開講	1	選択	1年以上	本年度は開講しない。 － H22 年度入学生は、受講できない。

対象：人間環境学科住環境学専攻

平成 17 年度以前の入学者については、科目名、必修、選必が変わっている場合がありますので、別添資料、専門教育ガイド、全学教育ガイド等を参照して履修してください。

科目名	変更内容	単位数	履修区分	対象年次	備考
CAD 演習	科目名変更 ***	1	選必* 必修**	2年	旧科目名：設計演習 I の一部を独立 * H15 年度以前入学生は選必 ** H16 年度以降入学生は必修 *** H17 年度の科目名の改正は平成 17 年度以降履修者に適用される 平成 15 年度までに（旧）設計演習 I を修得したものは履修できない
デジタルデザイン演習	科目名変更 ***	1	選必* 必修**	3年	旧科目名：設計演習 II の一部を独立 * H15 年度以前入学生は選必 ** H16 年度以降入学生は必修 *** H17 年度の科目名の改正は平成 17 年度以降履修者に適用される 平成 15 年度までに（旧）設計演習 II を修得したものは履修できない
建築環境学実験（旧科目）	非開講	2	選必	3年	本年度は開講しない。
建築装備学実習（旧科目）	非開講	2	選必	3年	本年度は開講しない。

住居管理学実習 (旧科目)	非開講	2	選必	2年	本年度は開講しない。
住居管理学実習 I (旧科目)	非開講	1	選必	2年	本年度は開講しない。
住居管理学実習 II (旧科目)	非開講	1	選必	2年	本年度は開講しない。
都市計画学Ⅱ (各論)	非開講	2	選必	3年	本年度は開講しない。
図学Ⅱ	非開講	2	選必	1年	本年度は開講しない。
空間計画のための物 理環境科学	非開講	2	選必	1年	本年度は開講しない。
空間計画のための物 理環境科学演習	非開講	2	選必	1年	本年度は開講しない。
空間計画のための自 然環境科学演習	非開講	2	選必	2年	本年度は開講しない。
建築構造力学	科目名変更	2	必修* 選必**	2年	* H16年度以降入学生は必修 ** H15年度以前入学生は「構造力学」を読み替え、 選必
建築材料・構造学実 験	対象学年 変更	2	必修	2年* 3年**	* H17年度入学生 ** H16年度以前入学生 開講日時については、担当教員に確認すること
建築一般構造学	科目名変更	2	必修	1年	○ H16・17年度年度入学者対象 － H15年度以前入学者は「建築一般構造・建築施工」 で受講登録する
建築施工学	隔年開講 (非開講)	2	選必	2年以上	本年度は開講しない。平成23年度開講予定 隔年開講、建築生産デザイン学演習と交互に開講 (旧) 建築一般構造・建築施工の施工学を独立
建築設備学	隔年開講 (開講)	2	選必	2年以上	本年度開講。隔年開講
建築構造学	隔年開講 (開講)	2	選必	2年以上	本年度開講。隔年開講
住宅法規	隔年開講 (非開講)	2	選必	2年以上	本年度は開講しない。
インテリアデザイン	隔年開講 (非開講)	2	選必	2年以上	本年度は開講しない。平成23年度開講予定 隔年開講、福祉住環境学と交互に開講 (旧)「デザイン概論」を修得したものは履修でき ない
福祉住環境学	隔年開講 (開講)	2	選必	2年以上	本年度開講。8月3日(火)～5日(木) 隔年開講、インテリアデザインと交互に開講 (旧)「高齢者施設環境論」を修得したものは履修 できない

対象：住環境学科，及び人間環境学科住環境学専攻

科目名	変更 内容	単 位 数	履 修 区 分	対 象 年 次	備 考
住環境学基礎実習	履修区分 注意	2	選必* 必修**	3年	次年度卒業予定者は3回生後期からゼミ配属する この科目は各ゼミで実施される * H17年度以前入学生は選必 ** H18年度以降入学生(住環境学科)は必修
住環境学の技術者倫 理	履修区分 注意	2	選必* 必修**	1年	* H17年度以前入学生は選必 ** H18年度以降入学生(住環境学科)は必修
空間計画のための物 理環境科学演習 I	履修区分 変更注意	3	選必* 選択** 必修***	1年	* H17年度以前入学生は選必 ** H18年度以降入学生(住環境学科)は選択 *** H22年度入学生 開講日時について、提示等で確認すること
空間計画のための物 理環境科学演習 II	履修区分 注意	3	選必* 選択**	1年	* H17年度以前入学生は選必 ** H18年度以降入学生(住環境学科)は選択 開講日時について、提示等で確認すること

「住環境学の技術者倫理」は、毎回担当者が変わりますので、毎回出席してください。例年、出席不足による再履修者がいます。

(6-2) 卒業研究

・卒業設計中間発表

平成22年7月30日(金) 10時 卒業設計プログラムレポート提出(資料9)
提出場所:住環境学共同研究室 E416
13時~ プレゼンテーション

*4回生は全員出席してください。

・卒業設計一次提出

平成22年12月17日(金) 提出時間 11-12時 提出場所:住環境学共同研究室 E416

・卒業研究提出(卒業設計、卒業論文)

平成23年2月4日(金) 提出時間 11-12時 提出場所:卒業設計 住環境学共同研究室 E416
卒業論文 住環境学資料室 E415

*13時より採点会議を開催します。

・卒業設計公開講評会(オープンジュリー)

平成23年2月12日(土)

3, 4回生は必ず出席してください。 1, 2回生も出席することが望ましいです。

・卒業研究発表会(卒業設計、卒業論文)

平成23年2月17日(木)

3, 4回生は必ず出席してください。 1, 2回生も出席することが望ましいです。

4. 学習等支援システム

1) アドバイザー

住環境学科・住環境学専攻の学生のひとりひとりについて、専任教員のアドバイザーが複数指定されます。具体的なアドバイザーの指定については、アドバイザー一覧(資料10)を参照して、各自で確認してください。アドバイザーは、学生個人の学習に関する全般的な事項をはじめ、進路や学外での活動等について助言と情報提供などを行います。各学期の最初と最後には、必ずアドバイザーと面談するか連絡をとりあって、学習状況についての報告と確認を行ってください。

また、助言の内容によっては、他の教員に助言を受けるように照会することもあります。アドバイザーとの面談は、できるだけオフィスアワーを活用して行うことをおすすめします。アドバイザーは、原則として入学時から3回生後期の研究室分属の時期まで変わらないものとします。

2) オフィスアワー

目的: オフィスアワー (Office Hour) とは、学生と教員が個別に面談し、住環境学科・住環境学専攻が提供する個別の授業科目の内容等に関する質問に答え、学習の方法について指導を行うために確保された時間のことです。特に授業時間内やその前後の時間に質問できなかった事項や、十分な回答が準備されていなかった事項、さらには参考書や関連する情報等については、オフィスアワーを有効に活用して、早い段階で疑問を解消し、さらに積極的に学習にとりくむ準備をすすめてください。また、学生ひとりひとりに割り当てられたアドバイザーとの面談についても、できるだけオフィスアワーを活用して行うようにしてください。

実施方法: 専任教員のオフィスアワーは別表(資料11)に示してあります。この表に示された時間帯は、それぞれの教員が原則として研究室に在室していますので、アポイントメント(事前の面談予約)なしでも気軽に面談に応じてくれます。また、これ以外の時間帯については、授業時間の前後や電子メール等を利用して事前にアポイントメントをとり、面談の時間を確認したうえで研究室を訪ねるようにしてください。さらには、ごく簡単な質問等については電子メールでの回答にも対応するようにしています。

記録：オフィスアワーにおける面談の内容は、アドバイジング・カルテ（資料12）として簡潔に記録します。
アドバイジング・カルテは、アドバイザー教員の研究室に常備してあるので学生が持参する必要はありませんが、住環境学科の資料室にもありますので、事前に相談内容等を記入して持参してもかまいません。面談にあたっては、学生自らが毎回の面談内容を記入し、アドバイザーの確認と署名を得てください。アドバイザーは、面談を行ったその都度、カルテをコピーして保管します。このカルテは授業の資料としてノートなどとともに整理保管して学習に役立てるとともに、セルフ・ポートフォリオの中に記録としてファイリングしてください。

3) 履修内容の自己管理

入学から卒業までの4年間における学習・教育目標に応じた履修計画を立てる手助けとすることを目的として、履修内容の自己管理ソフトを活用してください。履修内容の自己管理ソフトでは、学習時間の達成度を確認することができるようになっています。自己管理ソフトは、毎年更新されますので、更新の度に、以下のURLよりダウンロードしてください（学内アクセス専用のため、総合情報処理センターなど学内のホストを利用してください）。利用方法のマニュアルも合わせてダウンロードしてください。

ダウンロード用URL：<http://www.nara-wu.ac.jp/life/resd02/mukai/jikokanri.htm>

なお、各学期の最初の月末までに、必ず自己管理ソフトに、その学期までの単位習得状況・その学期の履修予定を入力の上、出力表をプリントアウトし、必ずアドバイザーの確認を受けてください。

住環境学科の卒業要件単位について授業科目群ごとの必要単位数を資料13に示しています。教養教育科目（基礎科目群、教養科目群）では、卒業までに必ず修得しなければならない「必修科目」を含めて、基礎科目群、教養科目群の「選択科目」から、それぞれ科目群での必要単位数以上を修得してください。また、専門教育科目（学部共通科目、学科専門科目、卒業研究）について、必ず履修しなければならない「必修科目」を修得するとともに、学部共通科目の「選択必修科目」から必要単位数以上を、学科専門科目の「選択必修科目」から必要単位数以上を修得してください。なお、以上で修得した単位数が130単位に満たない場合は、130単位以上となるように残りの単位を修得してください。なお、この残りの単位には、専門教育科目の「選択科目」を含めることができます。

建築士法の改正に伴い、平成21年度以前入学者（2回生以下）から適用される受験資格要件が変更となります。すなわち、住環境学科の授業科目のうち「国土交通大臣が指定する建築に関する科目（以下「指定科目」という。）」について、所定の分野区分の「必須指定科目」を含み、指定科目の必要単位数を修得する必要があります。

●平成22年度入学者（1回生）：住環境学科の卒業要件単位の「必修科目」を修得すれば、住環境学科の卒業により一級／二級・木造建築士試験受験資格要件を満たします。「必修科目」の分類が平成21年度以前入学者から変更となっていますので、資料14を参照し、卒業要件科目の取りこぼしのないように履修計画を立ててください。

●平成21年度入学者（2回生）：建築士試験受験資格要件に関する「必須指定科目」は、住環境学科の卒業要件単位の「必修科目」と異なるものが含まれますので、住環境学科の卒業により一級／二級・木造建築士試験受験資格要件を満たすことを希望する学生は、資料14を参照し、建築士試験資格を得るために受講すべき科目を卒業までに必ず修得するようにしてください。

なお、平成20年度以前の入学生（3回生以上）には、従前の学歴要件が適用されますので、卒業後、一級／二級・木造建築士試験受験資格を得ることができます（但し、一級建築士試験は卒業後2年の実務経験が必要）。

4) セルフ・ポートフォリオ

以下のような書類をファイリングし、学習達成度の自己点検に役立ててください。また、学年担任やアドバイザーとの面談に持参してください。ファイルは学生ひとりひとりに配布します。

前期・後期ごとに各自でセルフ・ポートフォリオチェック表により確認してファイリングし、必ずアドバイザーの印またはサインをもらうようにしてください。

◆ファイリングしておくもの

- ・ ガイダンス資料
- ・ 履修登録確認表
- ・ 時間割表
- ・ 成績通知書
- ・ 自己管理ソフト「出力シート」(履修予定・履修結果)
- ・ 卒業要件単位確認ソフト「出力シート」
- ・ 学年担任やアドバイザーとの連絡・面談の記録(電子メールでのやりとりの記録も含む)
- ・ アドバイジング・カルテ
- ・ その他、学習達成度の点検に関わるもの

5) クラス担任

入学年度が同じ住環境学科・住環境学専攻の学生のまとまりを「クラス」とよび、専任教員1名がその担任として指定されます。クラス担任は、学生がクラスを単位として行う活動(新入生合宿研修、在来生合宿研修、その他のイベント等)に引率するとともに、必要な助言と情報提供を行います。クラス担任は、あくまでもクラスとしての活動に関わる教員ですから、個人の学習や学外活動、進路等に関する事項は、アドバイザーに助言を求めるようにしてください。

5. 研修

1) 新入生合宿研修

目的：大学生活をより円滑に送るため、合宿を通して新入生が人間的なふれあいをもち、教員や先輩と懇談することにより相互の理解を深めることを目的とします。

研修先：

年度	見学先
2004～2009年	もくもく手作りファーム(三重県) 京都府立南山城少年自然の家泊(京都府相楽郡南山城村)
1999～2003年	常照皇寺、京都府美山町茅葺の里(重要伝統的建造物群保存地区) 京都府ゼミナールハウス泊

2) 在来生合宿研修(3回生対象)

目的：古今の優れた建築・庭園・町並みを見学し住環境について学び、見学した建築の作者の講演・討論を実施し理解を深めます。合宿を通じて学生生活に関わる問題点や今後の課題について学生全体で共有するとともに、教員と学生、学生間の交流をもって相互啓発と連帯感の育成を図ることを目的とします。

これまでの実績：

年度	見学先	講師
2009年	香川方面(猪熊弦一郎現代美術館、金毘羅宮文化ゾーン、香川県庁舎、イサムノグチ傘禮のアトリエ見学)	—
2008年	金沢方面(金沢21世紀美術館、「TO」「TO2」)	吉村寿博氏
2007年	愛知・豊田方面(OASIS21・豊田市美術館・愛・地球博記念公園)	小川広次氏(谷口建築設計事務所)
2006年	伊勢志摩方面(伊勢神宮・おかげ横丁・海の博物館・大王町波切・御杖小学校)	内藤廣建築設計事務所
2005年	香川・直島方面(坂出人工土地・猪熊弦一郎現代美術館・ベネッセハウス・地中美術館等)	—
2004年	長野方面(飯田市美術史博物館、妻籠・馬籠、浪合村小学校等)	中村 勉氏
2003年	岐阜方面(郡上八幡・ハイタウン北方・森林文化アカデミー・天命反転地等)	安田博道氏
2002年	播磨科学公園都市(スプリングテチャー・筑紫の丘斎場・浄土寺等)	遠藤秀平氏
2001年	高松市(イサムノグチ庭園美術館・四国民家村・瀬戸内海歴史民族資料館等)	庭園美術館学芸員
2000年	淡路島(本福寺・淡路夢舞台・TOTOシーウィンド等)	武藤隆氏(安藤忠雄事務所)
1999年	城崎、出石(城崎町宮内島団地・出石町立弘道小学校・出石町ひばこホール・植村直巳記念館等)	有村桂子氏
1998年	岡山(県営中庄住宅・後楽園・旧閑谷学校等)	遠藤剛生氏

その他：宿泊・食事など実費として15,000円程度の参加費を徴収します。

3) 住環境学学外実習（インターンシップ）

目的：住環境の学生が将来関係しそうな行政、公益法人、住宅メーカー、コンサルタント、設計事務所などで、実際に仕事を経験し、職場の状況、仕事の内容、流れなどを把握するために実施します（研修期間は8～9月の夏季休業中の2週間）。具体的な実習内容、時間は個々の受入れ先で異なりますが、学外実習後は成果をレポートにまとめ、1週間以内に研修先および担当教員に提出します。この科目は2単位として単位が認定されます。

これまでの実績（研修先）：

業種	研修先
行政	大阪府、奈良県、奈良市、宮崎県、愛媛県宇和町、大津市、静岡市
独立行政法人	都市再生機構
公益法人	(社)奈良まちづくりセンター、(財)公害地域再生センター
住宅メーカー	積水ハウス、大和ハウス、重川材木店
住宅設備	松下電工株式会社、シャープ(株)
建築設計	坂倉建築研究所大阪事務所・広島事務所、吉村篤一／建築環境研究所、阿久津友嗣／阿久津友嗣事務所、CLIP、駒井貞治／駒井貞治の事務所、玉置順／一級建築士事務所玉置アトリエ・宇治、戸田潤也／戸田潤也建築設計工房、細田みぎわ／Migiwa Hosoda Archi-Studio、長坂大／Mega、(有)ナック建築事務所、間工作舎、遠藤秀平／遠藤秀平建築研究所、宮本佳明／宮本佳明建築設計事務所、丸谷勝也／ARC UNIT STUDIO、吉本剛／吉本剛建築研究室、E-DESIGN、PLANET Creations 関谷昌人建築設計アトリエ、辻村久信／辻村久信デザイン事務所、HTA デザイン事務所、西沢立衛建築設計事務所、えぬぷらす一級建築士事務所
コンサルタント	(株)アーバンプランニング研究所(株)、オリエンタル・コンサルタンツ関西支社、(株)計画情報研究所、(株)DAN 計画研究所、(株)地域計画建築研究所、(株)碓井プランニング
造園設計	(株)アースワーク
研究所	竹中工務店技術研究所、産業技術総合研究所
その他	自治体研究社

※なお、上記とは別に、学生生活課の実施する「インターンシップ」もあります。

4) オープンデスク

主に設計事務所を対象とした、単位認定のない「インターンシップ」と考えてください。将来計画を具体的にするために、とても有効な方法のひとつでしょう。具体的な仕事は模型製作などで、以下の協会で行われています。

- ・ 日本建築家協会
- ・ 奈良県建築士事務所協会

6. 学生教育研究災害保険・付帯賠償責任保険について

本学では、授業や実験等の正課中（学外での見学含む）・学校行事中・インターンシップ中・教育実習中・クラブ活動等の課外活動中および通学中における不慮の事故により学生が障害を被った場合や、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を保障するために、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「学生教育研究災害障害保険（略称：学研災）」および「学研災付帯賠償責任保険（略称：学研賠）」に賛助会員として加入しています。在学中の不測の事態に供え、必ず入学時に加入してください。なお、2回生以上で未加入の場合でも、途中から加入できます。

加入手続きなどに関する詳細については、学生生活課学生生活係に問い合わせてください。

7. 建築関連の資格

1) 受験資格（卒業時）

- ・一級建築士
(平成 22 年度入学生・平成 20 年度以前入学者)
卒業後要実務経験 2 年。本学大学院博士前期課程において、指定科目を修得すれば修得単位数に応じて実務経験 1 年ないし 2 年とみなされる。
(平成 21 年度入学者)
学部において、指定科目の分類毎の必要単位数を修得すれば受験資格が得られる。卒業後要実務経験 2 年。本学大学院博士前期課程において、実務経験に関する指定科目を修得すれば修得単位数に応じて実務経験 1 年ないし 2 年とみなされる。
- ・二級建築士／木造建築士
(平成 22 年度入学生・平成 20 年度以前入学者)
卒業後受験できる。
(平成 21 年度入学者)
学部において、指定科目の分類毎の必要単位数を修得すれば卒業後受験できる。
- ・技術士 (JABEE 認定により一次試験免除)
- ・一級施工管理技士 (卒業後要実務経験 3 年；うち 1 年は指導監督の実務経験要)
- ・二級施工管理技士 (卒業後要実務経験 1 年)
- ・商業施設士 (卒業後要実務経験 1 年、または商業施設士補取得により学科試験免除 (実務経験不問))

2) 登録資格

- ・インテリアプランナー
(要実務経験 2 年、本学大学院博士前期課程修了者は実務経験 2 年とみなす)

3) 在学中に受験できる資格

- ・インテリアプランナー (学科試験は、在学中に受験可)
- ・宅地建物取引主任者
- ・福祉住環境コーディネーター
- ・インテリアコーディネーター
- ・インテリア設計士 (2 級)
- ・キッチンスペシャリスト (学科試験のみ在学中に受験可)
- ・カラーコーディネーター
- ・建築 CAD 検定
- ・DIYアドバイザー
- ・マンションリフォームマネジャー
- ・商業施設士補 (所定単位修得後、(社) 商業施設技術者・団体連合会の主催する指定講習会の受講により認定)

など

8. 成績優秀者表彰制度

1) 第学生会賞（設計賞，論文賞）

その年の優れた卒業研究に与えられます。住環境学講座 50 周年を記念し、平成 14 年度から始めました。翌年の第学生会報にその内容の概要が指導教員により紹介されます。実績は学科 HP を参照下さい。

2009 年度(第8回)

設計賞	越智 梓	「Sakura× Platform」
論文賞	小原由貴・百武昌子	「児童養護施設における生活の場としての子育て環境に関する研究」

2) 各種学協会による表彰

◆インテリア優秀学生賞（日本インテリア設計士協会）

2009 年度	稲村依子	「あかりと心理 —照明要件に関する基本的検討—」
	松井千佳	「タスクアンビエント照明に関する研究 —初期照明環境とタスクアンビエント比の容認率の関係—」

◆空気調和衛生工学会優秀学生賞

2009 年度	尾崎志穂	「窓際植生による日射遮蔽効果 環境要因が評価に及ぶ影響」
---------	------	------------------------------

◆商業施設技術者・団体連合会 会長賞（(社)商業施設技術者・団体連合会）

2009 年度	西尾悠子	「Direct City」
---------	------	---------------

実績は学科 HP を参照下さい。

3) その他

卒業設計作品で優秀なものについては、日本建築学会近畿支部主催卒業設計コンクール・日本建築学会主催全国大学・高専卒業設計展示会に応募しています（下記応募実績参照）。その他、近代建築『卒業制作』掲載（全国大学・高等専門学校建築系学科卒業設計優秀作品集）に掲載されます。

また、優秀な論文等は、日本建築学会大会・日本家政学会大会・照明学会全国大会・空調学会・ARAHE（アジア地区家政学会）等に発表しております。

各種コンクールへの応募実績（抜粋）

◆日本建築学会近畿支部主催卒業設計コンクール出展

2009 年度	角谷真衣	BODY BUILD
---------	------	------------

◆日本建築学会主催全国大学・高専卒業設計展示会出展

2009 年度	越智 梓	Sakura×Platform
2008 年度	山下聡美	原点回帰—地産地消を学ぶ料理体験施設—

◆近代建築 「卒業制作 2010」

2009 年度	伊井裕子	読むということ
---------	------	---------

◆京都建築学生之会合同卒業設計展 diploma×KYOTO

2009 年度	8名出展
---------	------

実績は学科 HP を参照下さい。

9. 進学・就職活動

1) 進学・就職調査

今年度、卒業予定者は「進学・就職現況調査表」を4月16日（金）正午までに住環境学科資料室（E415）に提出してください。

3回生を対象に、卒業後の進路希望、および就職の場合は希望分野等を後期ガイダンス時に調査します。

2) 学科・専攻を窓口とする就職斡旋

学科および専攻に求人募集があった場合の就職斡旋は、進路担当教員を窓口として、原則として下記の通り取扱います。なお、同時に複数の会社を紹介することはできません。

- ・求人募集内容をE棟4階および5階の掲示板に掲示し、それぞれの会社について締切日を設けて希望者に集合してもらいます。なお、緊急を要する場合は、進学・就職調査表をみて、しかるべき学生（複数）に知らせます。ゼミの指導教員を通じて連絡する場合もあります。
- ・同一会社への就職希望者が多数の場合は、できるだけ希望者間で話し合い応募者を決めてください。
- ・会社への紹介は、それまでの紹介回数が少ないものを優先します。希望者間での話し合いでもそのことを配慮してください。
- ・求人のきている会社に個人的な関係で就職活動を行う場合については、別枠であることが確認できれば独自の活動をしてかまいません。ただし、進路担当教員への連絡は必ず行ってください。また、この場合、学科・専攻から他の会社への紹介はできません。
- ・求人のきていない会社については、会社説明会の参加などの就職活動をする事は自由です。なお、この場合には他の会社への紹介は、原則として行いません。

3) 学生生活課による就職活動支援行事

各種支援行事が行われています。就職ガイダンスとして、一般就職対策関係、教員対策関係、公務員対策関係、インターンシップ関係などがあります。

詳細は大学ホームページ「就職支援」(<http://koto.nara-wu.ac.jp/syusyoku/adr.htm>) で確認してください。

4) 就職活動における注意

- ・就職に関する情報はE棟4階および5階の掲示板に掲示します。注意して見てください。
- ・就職活動の進捗状況については、節目ごとに必ず進路担当教員へ報告してください。
引き続き就職活動をする場合でも、内定をもらった時は必ず報告してください。
- ・内定が決定したら、ゼミの指導教員、および進路担当教員に伝えるとともに、学生生活課へ「就職内定報告書」および「就職活動アンケート」を提出してください。(用紙は学生生活課にあります。)
- ・就職に関する窓口は進路担当教員です。但し緊急な場合で進路担当教員が不在の場合は学科長とします。

5) 大学院進学

より高度な専門的知識や技術を習得するためには、大学院に進学することをおすすめします。高度な専門的職業人や研究者をめざすためには、大学院への進学が必要な時代になっています。特に、住環境学の領域では大学院進学が一般的になってきています。奈良女子大学には、大学院人間文化研究科の中に、それぞれの専門分野に対応した専攻とコースが用意されています。また、他大学の大学院に進学することも可能です。大学院進学にあたっては、下記の事項に注意して準備をすすめてください。

- ・本学の大学院を受験する場合には、事前に指導教員に相談してください。他大学の大学院を受験する場合も、できるだけ事前に相談してください。
- ・出願期間ならびに試験時期は大学によって異なりますので注意してください。
- ・他大学の大学院を受験する場合には、事前に相手方の教員にも相談することをすすめます。

6) 公務員試験の受験

住環境学に関わる専門知識を活かすことのできる公務員技術職への進路も開かれています。公務員には国家公務員と地方公務員（都道府県・市町村）がありますが、いずれも試験に合格することによって採用の候補者となることができます。試験は通常、6～8月に実施されますが、試験科目が多岐にわたり、合格には高度な教養と知識を必要としますので、早い段階から準備をはじめるとをすすめます。募集要項等につい

ては、人事院（国家公務員）ならびに各自治体（地方公務員）のホームページなどで確認するようにしてください。また例年3月ごろに欠員を募集する自治体もあります。

7) キャリア教育科目

平成16年度より、キャリア教育科目が開設されています。キャリア教育科目は、キャリアプラン科目群、教職科目群、資格関連科目群より構成されています。キャリア教育科目群は、卒業後の就職や進学などの将来設計について、基礎知識や情報収集能力・構想力を身につけ、各自のプランづくりに早期から取り組むための科目群です。今年度は「現代社会と職業」（2単位）、「専門職論（生活環境学部）」（2単位）、「キャリアデザインゼミナール」（各1単位）が開講されます。「現代社会と職業」は卒業要件単位として認められます。「キャリアデザインゼミナール」には、多数の科目がエントリーされています。各々開講時期が違うため注意してください。

また、教職科目群では教員免許状取得のためのカリキュラムを設けており、資格関連科目群では学校図書館司書教諭、学芸員の資格カリキュラムを設けています。詳細は全学教育ガイドを参照してください。

進路に関する相談は随時受け付けます。相談にあたっては、メール等で事前に進路担当教員（不在時は学科長）にアポイントメントをとってください。また、緊急を要する場合には、メールでも対応します。今年度の進路担当は宮城教員です。（研究室 E407, E-mail miyagi@cc.nara-wu.ac.jp）

10. 施設利用

1) 住環境学科資料室（旧図書室）（E415 室）

【資料室開室時間】

月～金曜日 9：30～12：00 , 13：00～16：30

過去の卒業論文・修士論文、建築系雑誌の最新号などを閲覧することができます。

また、eメールアドレス・携帯電話等連絡先の申し出のない方には貸出はいたしません。

2) ADRES室（Analysis and Design of Residential Environment System：E517 室）

住環境の解析・デザインを目的とし、22台のパソコンが設置されています。主に3回生の「デジタルデザイン演習」、4回生の卒業設計、研究などに利用されています。

3) 製図室（E512 室・E514 室）

設計製図課題の作成に使用します。E512 教室は1・2回生、E514 教室は3回生が使います。E514 の後方に模型製作室があります。模型の制作は、模型制作室を使用してください。

各課題提出後に清掃、年度末に大掃除を行います。

4) 実験室

実験・実習用に、住居管理学実習室（E412）、建築環境学実験室（E413）、人工気候室（E212）があります。住居管理学実習室には、材料・構造に関連する計測機器が備えられています。建築環境学実験室の中には室の大きさと壁面を変えることのできる実物大実験室と任意調光の光天井を備えた照明ブースがあります。人工気候室は温度、湿度の広範囲な任意調節が可能です。これらの実験・実習室は、建築構造・管理学実習、構造材料力学実習、住居管理学実習、建築構造学実習、住環境工学実習、建築装備学実習、建築環境学実習で用いるとともに、卒業研究にも使用します。

11. 学生による各種企画

以下の行事は、3回生が中心となり、学生によって自主的に企画運営されています。スムーズに運営するため、4月中にそれぞれの行事担当を決め、責任者を選出してクラス担任に報告してください。

1) クリスマスコンパ (通称 クリコン)

学年の枠を超えた学生および教員との交流の機会として、クリスマスの時期に行われる住環境学科恒例の行事です。

2) 卒業論文・卒業設計展

奈良女子大学記念館講堂（国指定・重要文化財）において、毎年の卒業設計と卒業研究の成果を広く一般に公開するために、2月上旬から中旬にかけて行います。卒業設計で作成された図面や模型だけでなく、卒業論文の成果もポスターにして展示されます。また卒業設計の作品については、展覧会の期間中に学外から建築家やデザイナーを招いて公開講評会（オープンジュリー）を実施します。企画と運営は3回生が主体となって行います。企画運営のマニュアルも用意されており、教員もサポート体制を整えています。

3) 卒業研究発表会終了後の懇親会（追い出しコンパ：通称 追コン）

卒業論文発表会終了後（2月下旬）に住環境の学生と教員が一同に会し、卒業予定者を祝福するための懇親会です。毎年、様々な内容で企画されています。

12. その他

第生会*と称する同窓会は、「第生会会報」の年刊、レクリエーション・懇親会等の活動をし、住環境学科内に事務局をおいています。

* 第生会は、奈良女子大学家政学部住居保健学科，同専攻科，住居学科，生活環境学部人間環境学科住環境学専攻，住環境学科，大学院家政学研究科住環境学専攻，大学院人間文化研究科の卒業生，修了生，在学生を会員とし，教職員，並びに本教室に関係のあったものを客員として組織されています。